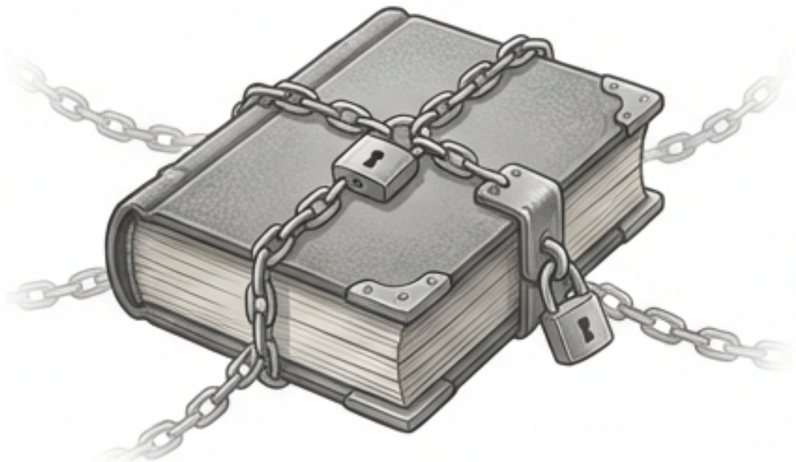
コンプライアンスは「規則」ではなく、日常を守る「判断基準」である

福祉事業所における法令遵守と倫理綱領の統合的運用ガイド

対象読者：就労継続支援B型など福祉事業所の管理者・経営層・全職員

NotebookLM

ルールに縛られる組織から、迷わず行動できる組織へ



違反を防ぐための事務的な負担（規則）





現場が迷わず行動できる日常の判断基準



迷いの排除

法令と倫理の統合でグレーゾーンの
判断基準を明確化



安全な相談体制

心理的安全性を担保し、
早期に声を上げられる環境構築



組織学習

事案を個人のミスで終わらせず、
組織全体のナレッジへ昇華

NotebookLM

現場で日々発生する「ヒヤリ・ハット」と判断の迷い



課題1: 属人的な倫理判断

法令理解が職員間でばらつき、個人の感覚に依存している



課題2: 機能しない相談窓口

窓口はあるが心理的ハードルが高く、深刻化するまで隠れてしまう



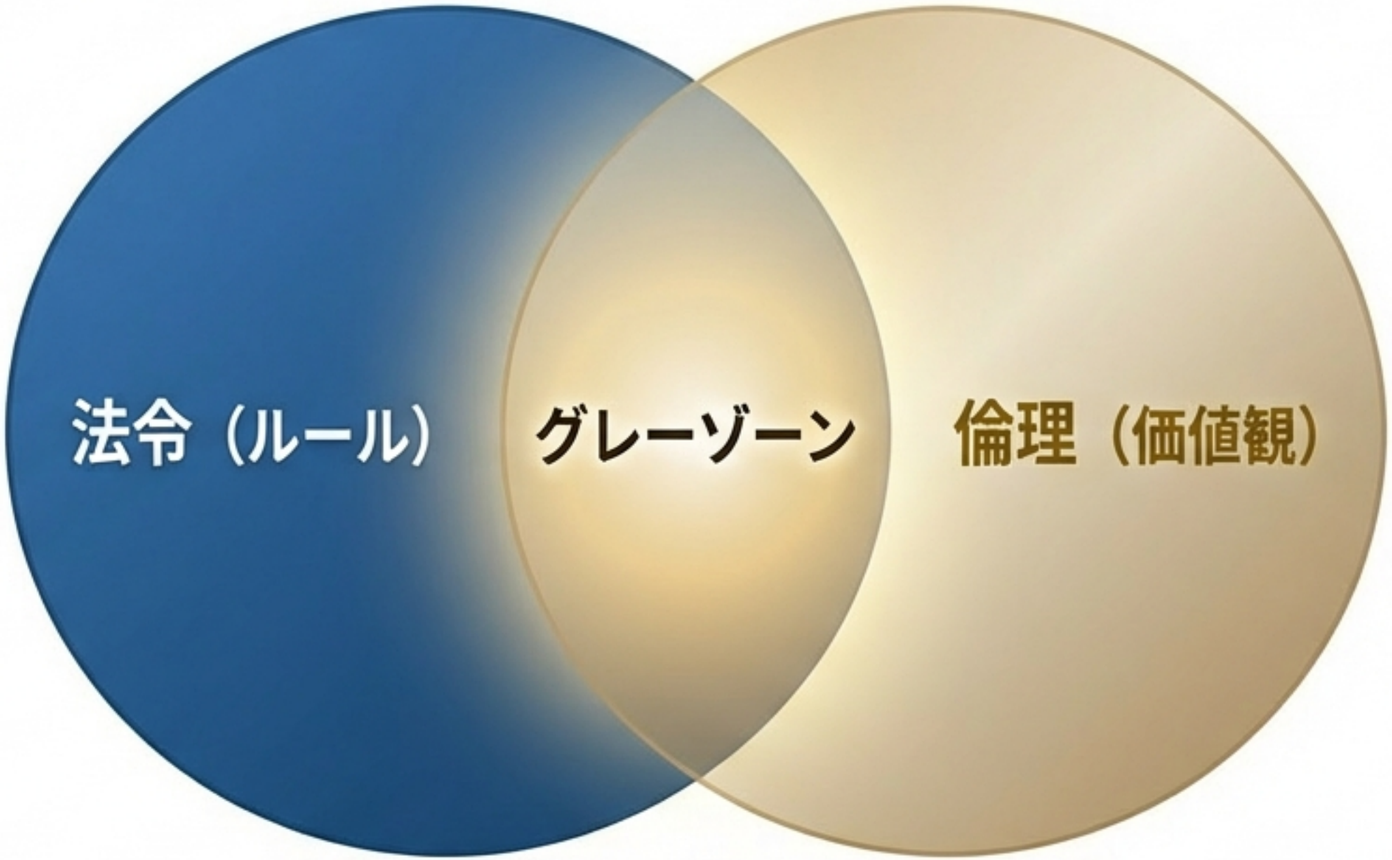
課題3: グレーゾーンの葛藤

現場で迷いが出やすい3つの具体例：

- 個人情報取扱い：利便性と守秘義務のバランス
- 関係者対応：利用者の利益と事業所都合の衝突
- ハラスメント：兆候の初期段階での対応遅れ

NotebookLM

法令遵守（ルール）の限界を、倫理綱領（価値観）が補完する



法令は最低限のライン。法令だけではカバーしきれない日々の「グレーゾーン」 に光を当てるのが
倫理綱領の役割です。この2つをセットで運用して初めて、現場は迷わず動けます。

NotebookLM

迷わない現場をつくる「5つの実装ステップ」



構築（Step 1-3）から運用・改善（Step 4-5）までのサイクルを回し、
自走する仕組みを構築します。

NotebookLM

Step 1 & 2: 基準を整え、現場の「リアルな事例」へ翻訳する





Step 2: 事例ベース研修



法令遵守方針、倫理綱領、
行動規範の一貫性を確保。
矛盾のないルール設計。

- NG: 単なる条文の読み上げ（響かない）
- OK: 現場事例を用いた判断練習（腹落ちする）

**倫理綱領を行動規範へ翻訳し、
現場の文脈で考える時間を作る**

NotebookLM

Step 3: 心理的安全性を担保する「セーフティネット」の設計



相談窓口の複線化

1つの窓口に依存せず、複数のルート（直属の上司以外、外部窓口など）を用意。

匿名性の確保

匿名通報を可能にし、声を上げるハードルを極限まで下げる。

保護ルールの徹底

相談者・通報者が不利益な扱いを受けないことを明文化し、周知する。

NotebookLM

Step 4 & 5: 事案を「個人の責任」で終わらせず「組織の学習」へ



NotebookLM

ケーススタディ：AK事業所の変革軌跡

導入前の課題：判断基準が曖昧で、事案対応が特定担当者に依存していた。

	導入前 (Before)	導入後 (After)
アプローチ	座学のみ	事例研修を四半期実施、 倫理綱領を行動規範へ翻訳
体制	窓口が一つ	相談窓口を複線化
結果	発覚が遅れ深刻化	相談件数が早期化、 是正対応の一貫性が向上



成功要因: ルールを単なるお飾りとせず、
現場の日常的な「判断」に直接接続したこと。

NotebookLM

陥りやすい「3つの失敗パターン」とその回避策

失敗：文書整備だけで満足する（実装されず効果ゼロ）

回避策：事例研修を通じて「運用」に落とし込む。

失敗：相談窓口を一本化する（相談しづらい人が埋もれる）

回避策：窓口の複線化により、選択肢を提供する。

失敗：事案を隠す文化（再発リスクの増大）

回避策：失敗を「学習目的」で共有し、責めるのではなく仕組みを直す文化を作る。

NotebookLM

運用の見える化：自走を促すKPIダッシュボード



研修実施率

目標値: 100%
（計画どおりの研修実施割合）
頻度: 四半期



早期相談率

目標値: 前回比改善
（深刻化前に相談された割合）
頻度: 月次



是正完了率

目標値: 95%以上
（是正措置の期限内完了割合）
頻度: 月次

NotebookLM

監査・品質チェックリストと参照法令

- ☐ 方針・綱領・規範が整合している
- ☐ 事例研修の実施記録がある
- ☐ 相談体制が現場に周知されている
- ☐ 事案の是正履歴が時系列で管理されている
- ☐ 年次レビューが確実に実施されている



参照すべき法令・ガイドライン

- 障害者総合支援法
- 個人情報保護法・労務関連法令
- 倫理綱領関連指針

NotebookLM

法令遵守と倫理綱領は、組織の信頼を支える「両輪」



基準整備、安全な相談体制、そして継続的なレビュー。
これらを「仕組み化」することで、迷いのない現場判断が生まれます。

ルールを壁にするのではなく、明日からの現場を照らす道標にしましょう。
まずは「Step1: 基準文書の確認」から始めてください。

NotebookLM